

整理番号	2-①	担当課	農林水産振興課
------	-----	-----	---------

戦略分類 戦略2 若者と仕事を創り出す！雇用創出戦略！

戦略事業名 ①「お～い★さかな君」発掘・育成事業

予算事業名 「お～い★さかな君」発掘・育成事業

平成29年度実績額 2,124,115円 平成30年度予算額(6月補正後) 1,119,000円

	H27	H28	H29
事業の概要（実績）	—	御食国・若狭を支える大島の漁業の一層の活性化に向けて、漁業に従事することを希望する男性(=「お～い★さかな君」)を全国的に募集し、自立に向けた支援を行う。	
		漁業従事者への支援、新規就漁者の募集 ①ふくい水産カレッジ入校者の費用負担 ②水産関係の地域おこし協力隊や移住者募集 ③ふくい水産カレッジ受講者への支援(受講に係る交通費補助)  (実績) ふくい水産カレッジ3名入校 ①2名の受講費用負担(このほか1名は国OJT制度利用) ②3名分の交通費補助(交付先:大島漁協)	漁業従事者への支援、新規就漁者の募集 ①ふくい水産カレッジ入校者の費用負担 ②水産関係の地域おこし協力隊や移住者募集 ③ふくい水産カレッジ受講者への支援(受講に係る交通費補助) (実績) ふくい水産カレッジ2名入校 ①2名の受講費用負担 ②2名分の交通費補助(交付先:大島漁協) このほか、県外出身者(富山県)1名が新規に就漁開始(H30.2月) ※就漁者住宅確保支援あり また、H30.4月から新たに地域おこし協力隊1名が着任し、大島漁協を拠点に活動



漁業就業支援フェア

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	新規漁業従事者数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成26年度)	—		H29年度末	6人	
	目標値 (平成31年度末)	累計 10人		H30年6月末	6人	60.0

① 数値目標達成状況 達成が見込める状況

達成状況の要因分析	達成に向けての今後の取組方針
漁業就業支援フェアなどの漁業への就業への意識が高い参加者が集まる催事に複数参画し、新規就漁者の獲得に努めてきた。 新規就漁者の内訳: 町内出身者5名、県外出身者1名	引き続き、新規就漁者のためのふくい水産カレッジ入校への支援や地域おこし協力隊の募集活動を実施

② 事業で得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)

ノウハウの内容	①就漁希望者募集の際の町のPR方法と内容検討(本町での就漁のメリット等) ②就漁希望者のニーズの把握
ノウハウの活用状況・活用方針	相談体制の充実(漁協との連携による有用な情報提供、就漁希望者と受入側との橋渡し役となりマッチングを進める)

③ 外部評価結果の反映

平成29年度外部有識者評価委員会における意見	意見への対応
地域おこし協力隊の活用も含め、従事者の確保に取組まれたい。	・取組予定① 引き続き、漁業希望者が多く集まる催事に積極的に参画 ・取組予定② 地元漁協との連携を図り、地域おこし協力隊にどのような業務を行ってもらうのかを明確化し、志望に沿った人材を確保

④ 事業成果

就漁希望者への支援を行い、これまでに6名(うち1名は県外出身者)の新規就漁者を確保できた。また、水産業に関係する地域おこし協力隊も募集2名のうち、1名を確保することができた。

⑤ 内部評価結果

KPIについては目標達成に向け順調に推移しており、今後も、既存の制度を有効に活用して取り組んでいく。

外部有識者評価委員会の結果

**【評価結果・指摘】**  
 一次産業への従事を促すには、行政による就業支援等の動機付けが必要であり、今後も新規就業者へのサポートについては積極的に取り組まれたい。  
 新規漁業従事者の底引き漁業休漁期の収入確保についての方策を検討されたい。  
 Iターン促進に向けたイメージ戦略として、恵まれた自然環境や子育て支援策等のほか、転入して成功した人の情報を全国的に発信されたい。

整理番号	2-②	担当課	農林水産振興課
------	-----	-----	---------

戦略分類	戦略2 若者と仕事を創り出す！雇用創出戦略！
------	------------------------

戦略事業名	② 1次産業スタート支援事業
-------	----------------

予算事業名	一次産業スタート支援事業
-------	--------------

平成29年度実績額	71,908,969円	平成30年度予算額(6月補正後)	35,529,000円
-----------	-------------	------------------	-------------

事業の概要(実績)	H27	H28	H29
	—	—	<p>新規就業者や移住者が、自立した農林水産業を営めるよう、研修への支援や住宅確保に係る支援等を行う。加えて、耕作放棄地等の管理・仲介を行い、新規就業者への橋渡しを行う。</p> <p>①一次産業活動拠点施設の整備(旧大島公民館改修)</p> <p>(実績)</p> <p>①本体施設改修(H28繰越) 49,416,234円 備品等購入(H28繰越) 2,972,160円 空調設備改修(H29) 14,524,252円</p>

宿泊室



食堂

成果を測る指標(KPI・数値目標)	農林水産業新規就業者数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成26年度)	3人		H29年度末	3人	30.0
	目標値(平成31年度末)	累計 10人		H30年6月末	3人	30.0

① 数値目標達成状況		達成が見込める状況
達成状況の要因分析		達成に向けての今後の取組方針
<p>一次産業活動拠点施設の整備(H29)により、その施設の活用を促進し、新規農林水産従事者を確保することとしており、本年度(H30)からの施設の利用をいかに高めていくかが鍵となる。</p>		<p>これまでに関わりを持った大学等をはじめ、就農・起業女子応援事業への参加者や一次産業関連の学校等を対象に、一次産業が体験できるセミナーハウスとしてPR</p>
② 事業で得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)		
ノウハウの内容	<p>一次産業活動拠点施設の整備に伴い、基本的な運営ルールは設定したが、今後、利用者の幅の広がりから出てくるケースを施設の利用拡大に繋げられるよう必要に応じて、運営ルールの見直しを行っていく。</p>	
ノウハウの活用状況・活用方針	<p>施設の利用を図り、施設利用者が将来、本町で就業するためのニーズに対応した幅広い支援が可能な容を検討</p>	
③ 外部評価結果の反映		
平成29年度外部有識者評価委員会における意見	意見への対応	
<p>外部有識者による評価において、特段の言及はなかった。</p>	—	
④ 事業成果		
<p>一次産業活動拠点施設が整備されたことで、県内外からの幅広い利用者の受入が可能となる。</p>		
⑤ 内部評価結果		
<p>施設の有効利用として、一次産業に係る比較的長期の真剣な体験活動や、高収益作物の栽培など安定的かつ持続可能な経営に関する講習会の実施を検討する必要がある。</p>		

#### 外部有識者評価委員会の結果

##### 【評価結果・指摘】

一次産業への従事を促すには、行政による就業支援等の動機付けが必要であり、今後も新規就業者へのサポートについては積極的に取り組まれない。

I ターン促進に向けたイメージ戦略として、恵まれた自然環境や子育て支援策等のほか、転入して成功した人の情報を全国的に発信されたい。

就農促進に係る町の事業間の連携を図りつつ、農業従事者の確保に取り組まれない。

整理番号	2-③	担当課	農林水産振興課
------	-----	-----	---------

戦略分類	戦略2 若者と仕事を創り出す！雇用創出戦略！		
------	------------------------	--	--

戦略事業名	③「儲ける」1次産業支援事業		
-------	----------------	--	--

予算事業名	「儲ける」一次産業支援事業		
-------	---------------	--	--

平成29年度実績額	4,501,651円	平成30年度予算額(6月補正後)	6,714,000円
-----------	------------	------------------	------------

	H27	H28	H29
事業の概要（実績）	<p>農林水産業における経営基盤の整備及び強化を図るための支援を行うとともに、加工品開発やブランド化による付加価値の高い商品開発を推進する。加えて、販売ルート拡大などにより、効率的で自立した、第1次産業の経営体を育成する。</p>		
	—	<p>①漁業近代化施設等整備事業により、地元漁協が行うプロトン凍結機の導入を支援(H27繰越)</p> <p>②ブランド化研修会の開催(商品開発指導等)</p> <p>③販売促進戦略調査の実施(マーケティング調査、アマダイの商品化)(実績)</p> <p>①高鮮度維持凍結機1台導入(道の駅「うみんぴあ大飯」設置)</p> <p>②実施:平成28年11月22日 受講者21名(特産加工グループ等の生産者)</p> <p>③実施1:平成28年11月21日 内容:アカアマダイ(若狭ぐじ)の販路開拓・販売促進に向けた現地調査及び指導 実施2:平成29年1月17日 内容:アカアマダイ(若狭ぐじ)の商品力・販売力に関する踏査及び指導(16名参加)</p>	<p>①おいおいブランド認証制度の構築(実績)</p> <p>①第1回委員会 実施:平成29年8月10日 内容:「おいおいブランド認証・育成支援推進委員会」発足、今後の進め方確認 &lt;H29.9月~10月に、おいおいブランド認証・育成支援推進制度に関する調査実施&gt;</p> <p>第2回委員会 実施:平成29年11月18日 内容:ブランド認証制度、育成支援制度、ブランド認証マーク等の検討 &lt;H30.1月に、おいおいブランド認証マーク制作に係るプロポーザル実施&gt;</p> <p>第3回委員会 実施:平成30年2月23日 内容:おいおいブランド認証マークの決定、ブランド認証の基準の決定、認証事業のPRチラシ作成検討</p>



「おいおいブランド認証・育成支援制度」チラシ

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	新商品開発数		現 状		KPI達成率 (%)	
	基準値 (平成26年度)	—	⇒	H29年度末		4件
	目標値 (平成31年度末)	累計 5件		H30年6月末	4件	80.0

① 数値目標達成状況		達成が見込める状況
達成状況の要因分析	達成に向けての今後の取組方針	
<p>・ブランド認証制度活用による事業効果をどう発揮させていくかは、生産者や事業者等の理解と協力が必須となる。</p> <p>・生産者等の意欲を高めていくような取組を進めながら、高付加価値化、ブランド化を進めていく必要がある。</p>	<p>①おいブランドの育成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいブランド育成支援チームの組織化</li> <li>・育成支援プログラムの実施</li> <li>・認証商品のテストマーケティング</li> </ul> <p>②おいブランドの認証支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランド認証の申請・決定</li> <li>・認証商品の情報発信等</li> </ul>	
② 事業で得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)		
ノウハウの内容	<p>①ブランド認証による生産者等のメリットの引き出し方</p> <p>②県外向けのカタログ通販やふるさと納税返礼品等の出品による商品、産地化の認知度向上</p>	
ノウハウの活用状況・活用方針	商品の高付加価値化を目指した生産者等の意欲をどう高めていくか、頑張れば儲かる仕組みの確立と気運の醸成	
③ 外部評価結果の反映		
平成29年度外部有識者評価委員会における意見	意見への対応	
外部有識者による評価において、特段の言及はなかった。		
④ 事業成果		
<p>プロトン凍結機の導入により、素材の活用の幅が広がり、単価の高い商品開発や県内外への商品販売等、高付加価値化や高収益に繋がる一步を踏み出せた。</p> <p>○新商品開発4商品(①若狭甘鯛の刺身盛り、②福井サーモンの刺身盛り、③飲む梅ゼリー、④野菜入りジャコ天)</p>		
⑤ 内部評価結果		
<p>KPIについては目標達成に向け着実に新商品が開発されている。</p> <p>開発した商品の販路の拡大に向け、漁業者の意識高揚及びスキルアップ等継続的な学習機会の構築に取り組む必要がある。</p>		

#### 外部有識者評価委員会の結果

##### 【評価結果・指摘】

内閣府が実施する「稼げるまちづくり」事業等の事例なども参考に、おい町に適した事業のあり方を考案されることを期待したい。

整理番号	2-④	担当課	農林水産振興課
------	-----	-----	---------

戦略分類	戦略2 若者と仕事を創り出す！雇用創出戦略！		
------	------------------------	--	--

戦略事業名	④ まるごとジビエ特産事業		
-------	---------------	--	--

予算事業名	まるごとジビエ特産事業		
-------	-------------	--	--

平成29年度実績額	124,870円	平成30年度予算額(6月補正後)	326,000円
-----------	----------	------------------	----------

事業の概要(実績)	H27	H28	H29
	—	<p>獣肉を得るための狩猟ハンターへの支援から、食材として活用し、町の特産品としてPRするための支援まで、一体的に取り組む。また、ジビエ料理・加工品の開発・研究に取り組むにあたっては、町の料理人等と連携することで、地域の特性を活かしたものとなるよう努める。</p> <p>①解体施設等の先進地視察調査 ②獣解体処理技術習得研修会(止め刺し) ③ジビエ料理開発用の獣肉提供</p> <p>(実績) ①視察先: 京都府南丹市美山町(平成29年3月22日) 猟友会会員等18名参加 ②実施: 平成29年3月15日 12名受講 ③7事業所に提供し、3商品開発</p>	



ジビエ料理  
試食会

成果を測る指標(KPI・数値目標)	ジビエ料理開発件数		⇒	現 状		KPI達成率(%)	
	基準値 (平成26年度)	—		H29年度末	3件		60.0
	目標値 (平成31年度末)	累計 5件		H30年6月末	3件		60.0

① 数値目標達成状況		達成が見込める状況
達成状況の要因分析		達成に向けての今後の取組方針
町内料理店や特産品開発グループなどとの連携強化と取組への支援		引き続き、町内での獣解体施設の整備を視野に入れた近隣の類似施設やその運営状況の視察、自前で捕獲獣を前処理できる技術の講習、及びジビエ料理開発に繋げるための料理店などへの獣肉提供を継続

② 事業で得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)	
ノウハウの内容	①先進地視察や前処理技術講習を通じ、猟友会員等の獣肉活用に対する考え等が確認できた。 ②本町での解体施設の整備によるジビエ活用の取組のほか、他市町の類似施設を活用した取組も含めた幅広い検討が必要であること。
ノウハウの活用状況・活用方針	獣捕獲から前処理、解体処理等の一連の取組とその販路等について、労働力と費用の収支、採算性を考慮した町の支援内容とその範囲などを検討

③ 外部評価結果の反映	
平成29年度外部有識者評価委員会における意見	意見への対応
外部有識者による評価において、特段の言及はなかった。	—

④ 事業成果
ジビエ料理普及の先駆けとして、新料理メニューを3件開発した(①鹿ヒレ肉の朴葉味噌風味カツ、②鹿ゴロゴロミンチカツ、③ジビエコロッケ)

内部評価結果
KPIについては目標達成に向け着実に新商品が開発されている。 これまでの取組を継続していくとともに、ジビエの活用によりどう付加価値を高めていくかということ、これまでに関わってきた猟友会員や料理店など事業所と一緒に具体案を出していく。

外部有識者評価委員会の結果
【評価結果・指摘】 他地域で実施されている事例等も参考に、おおい町に適した事業のあり方を考案されることを期待したい。



整理番号	2-⑤	担当課	商工観光振興課
------	-----	-----	---------

戦略分類	戦略2 若者と仕事を創り出す！雇用創出戦略！
------	------------------------

戦略事業名	⑤ IJUターン起業促進支援事業
-------	------------------

予算事業名	(1)IJUターン等起業促進支援事業、(2)チャレンジショップ整備事業
-------	-------------------------------------

平成29年度実績額	19,980,000円	平成30年度予算額(6月補正後)	23,620,000円
-----------	-------------	------------------	-------------

事業の概要（実績）	H27	H28	H29
	—	<p>(1)IJUターン等起業促進支援事業</p> <p>町の特定創業支援事業計画に沿って、新規創業及び二次創業推奨することにより、商工業の活性化を図り、減少傾向を辿る町内事業者数の確保を図るとともに、I・J・Uターンの契機を創出する。</p> <p>町内において創業を希望する方に対し、創業時の負担を軽減するため、初期投資等に係る費用の2/3(上限5,000千円を助成する。</p> <p>・二次創業 2件(コインランドリー、焼肉店) 実績額 10,000千円</p>	<p>(1)IJUターン等起業促進支援事業</p> <p>町の特定創業支援事業計画に沿って、新規創業及び二次創業推奨することにより、商工業の活性化を図り、減少傾向を辿る町内事業者数の確保を図るとともに、I・J・Uターンの契機を創出する。</p> <p>町内において創業を希望する方に対し、創業時の負担を軽減するため、初期投資等に係る費用の2/3(上限5,000千円を助成する。</p> <p>・新規創業 1件(観光農園) ・二次創業 2件(広告代理店、レストラン) 実績額 13,500千円</p> <p>(2)チャレンジショップ整備事業 チャレンジショップ運営計画策定</p>



本事業を利用しオープンしたレストラン

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	当該事業を利用した起業件数		⇒	現 状		KPI達成率 (%)	
	基準値 (平成26年度)	—		H29年度末	5件		50.0
	目標値 (平成31年度末)	累計 10件		H30年6月末	5件		50.0

① 数値目標達成状況		達成が見込める状況
達成状況の要因分析		達成に向けての今後の取組方針
<p>H30年度において、既に2件(新規1件、二次創業1件)が事業着手しており、相談件数を鑑みると達成は可能とみられる。</p>		<p>H30年度において、都市部において開催される移住定住フェア等を通じて制度のPRを行い、IJUターンの促進につなげる。</p>
② 事業で得られたノウハウ(成果又は反省から得られた情報や知識)		
ノウハウの内容	<p>制度の周知に伴い様々なケースが町や商工会に対して相談されるため、事業計画の精査において適切な助言ができる体制が整ってきている。</p>	
ノウハウの活用状況・活用方針	<p>町と商工会等関係機関との連携による創業支援体制の確立により、当該補助事業以外の制度活用においても、幅広く連携可能となる。</p>	
③ 外部評価結果の反映		
平成29年度外部有識者評価委員会における意見		意見への対応
<p>町内の雇用及び一次創業での活用の促進につながるような運用に期待する。ホームページ等での積極的な情報発信に努められたい。</p>		<p>都市部において開催される移住定住フェア等を通じて制度のPRを行う。</p>
④ 事業成果		
<p>当該補助事業の採択に必要な「創業支援セミナー」の受講や相談件数もコンスタントに確保されており、折返し段階で50%達成出来ていることから、H31年度における目標の達成が見込める。 補助事業者の追跡調査については、商工会において定期的な事業ヒアリングにて、必要な助言等を行い、継続的に操業できる環境を支援している。</p>		
⑤ 内部評価結果		
<p>KPIについては目標達成に向け順調に推移しているが、IJUターンによる起業は不十分な状況なので、町外に向けたPRを更に進め、移住につながる制度利用者の確保に取り組んでいく。</p>		

#### 外部有識者評価委員会の結果

##### 【評価結果・指摘】

UIJターン起業創業支援事業の町外・県外へのPRを図るため、現在計画されているチャレンジショップを有効に活用されたい。

Iターン促進に向けたイメージ戦略として、恵まれた自然環境や子育て支援策等のほか、転入して成功した人の情報を全国的に発信されたい。